

## 2021年度薬科学教員会議議事録

日時：3月24日（水）午後2時から3時まで

会議方法：WEB 会議システム Zoom 利用

出席者（43名）

奈良場 博昭 岩手医科大学、国嶋崇隆 金沢大学、田辺 光男 北里大学、永澤 秀子 岐阜薬科大学、齊藤秀俊 九州大学、黒川 昌彦 九州保健福祉大学、谷口 陽祐 九州保健福祉大学、正宏 岩城 近畿大学、首藤 剛 熊本大学、増野 匡彦 慶応義塾大学、大江 知之 慶応義塾大学、菅 敏幸 静岡県立大学、浅井 知浩 静岡県立大学、杉田 義昭 城西大学、今井 信行 千葉科学大学、野口 拓也 千葉科学大学、小椋 康光 千葉大学、井上 将行 東京大学、井ノ口仁一 東北医科薬科大学、田中 秀治 徳島大学、久米 利明 富山大学、池田 恵介 富山大学、藤田 英明 長崎国際大学、黒田 直敬 長崎大学、田中 正一 長崎大学、林 秀敏 名古屋市立大学、脇田 紀子 日本薬科大学、松田 佳和 日本薬科大学、小池 透 広島大学、古舘 信 福岡大学、田川 義展 福岡大学、細江 智夫 星薬科大学、五十嵐 勝秀 星薬科大学、細江 智夫 星薬科大学、市川 聡 北海道大学、黒田 幸弘 武庫川女子大学、長浜 正巳 明治薬科大学、高取 和彦 明治薬科大学、庄司 満 横浜薬科大学、川嶋 剛 横浜薬科大学、井之上 浩一 立命館大学、宮崎 智 東京理科大学、秋本 和憲 東京理科大学

議題：

- ・ 前回議事録承認
- ・ コロナ禍におけるカリキュラムの実施状況について
- ・ コアカリキュラム改定への意見について
- ・ 高校向け説明会の現状と企画について
- ・ 4年制学科の入試について（入試形態と募集人数、受験科目等）
- ・ 次年度以降の本会議での取り上げたい議事などの提案
- ・ 次回世話人選出
- ・ その他

議事録（案）

- ・ 前回議事録承認

事前にメール配信して審議を行った。特にご意見はなく承認された。

- ・ コロナ禍におけるカリキュラムの実施状況について

千葉大学、近畿大学、名古屋市立大学、慶応大学より実施状況の紹介をいただいた。

何れも、講義はオンライン中心とし、定期試験は対面とすることで対応されていた。オンライン講義・実習には限界があり、令和3年度は、対面での講義・実習を中心に計画している旨の説明をされていた。オンラインでの実施に際し、学生側の ICT 環境の支援を行うことについては、名古屋市立大学では、「ライン、学内情報システム、あともう一つ、チューターを介して絶えず応答する」の3種の通信手段を用いるなどの工夫をされていた。また、非同期型での講義も増えたため、ビデオコンテンツなどが整う利点もあり、次年度以降はこうしたコンテンツの有効活用を行いたいとのコメントも紹介された。また、地方出身者の動向については、おおよそ6月をめどに上京してきているとのコメントが慶応大学から紹介された。概して、全国的に前期はオンライン中心、後期から対面での実習等を増やして対応していたという全容が明らかとなった。

- ・ コアカリキュラム改定への意見について
- ・ 高校向け説明会の現状と企画について

上記2つの話題については、東京理科大学、熊本大学および静岡県立大学から現状説明等をしていただいた。なお、「高校向け説明会の現状と企画」については、アンケートを実施して他大学からの意見を集約したい旨の提案をし、了承された。

以下に各大学からの説明内容の抜粋。

<東京理科大学>

6年制と4年制併設の薬学部では、設置基準により、合計定員数が少なくてもよいことが認められている。従って、6年制と4年制のカリキュラムを所属学科によらず、同一の教員が教えている。法人からは、他学部学科との差別化を含め、6年制と4年制学科の違いを強調すべきという指摘もあり、各学科での特異的な科目を設定や所属教員を活かしたカリキュラムの立案等で議論や対立も起こっていた。しかし、薬学のアイデンティティーに基づけば、共通的なカリキュラムの上に立ち、両学科の教員が互いに協調して教育・研究を行うことこそが、効率的かつ総合大学の中の学部としての独自性になるという認識に至った。この事は卒業研究で顕著で、東京理科大学ではほとんどすべての研究室に4年制と6年制の学生が所属しており、研究活動でお互いに刺激しあっている。4年制の学生であっても、薬物医療や緩和治療に興味を持つような学生もいる。4年制学科が独立せず、6年制学科と交わることで、大学院への進学にも影響があると考えている。

6年制コアカリキュラムの変遷・改定に関して、6年制では医学部を巻き込んだチーム医療ということが台頭してくると推測している。そのため、6年制カリキュラムにおいて基礎薬学が減少傾向となる可能性があり、その補完としての4年制学科での基礎科目の開講、一方、4年制学科では、臨床現場で必要としている研究内容を薬学科の研究内容から取り出し、4年制の研究に活かすことが可能ではないかと思っている。

<熊本大学>

本学は6年制55名、4年制35名の体制で行っている。6年制はコアカリがあるが、更に

カリキュラムマップを作り実施している。4年制の科目の大半、8割9割が6年制の科目と被っており、基本的には2-3年生まではほとんど6年制と一緒に受講している。但し、方法としては必修単位を極力減らし自由度を高めるスタイルにしている。必修単位としては、各科目の基礎部分が必修、それ以上については、選択となるようなカリキュラムマップを作っている。4年制学科のカリキュラムとコアカリをどこまでやるべきか、という苦労があるが、6年制の授業をベースに4年制のカリキュラムを作るようにしている。4年制特有の科目がいくつかあるので、それを4年制学科の特色と打ち出せるようなカリキュラムマップを作っている。

高校に対するアピールはどうすべきかにもつながるが、6年制学科は従来の4年制薬学科から臨床寄りの講義が増えることで出来上がったわけで、従来の4年制薬学科のコースを踏襲しているのが現6年制であることを強く認識していること、一方、創薬の4年制コースはより研究志向を高めた人材育成の観点であり、どちらかといえば、創薬の4年制学科の方がコースとしてスペシャルという見せ方をすべきではないか、といつも感じている。それに加えて他学部との差別化をどれだけ薬学の観点から行えるか、おそらく、創薬特有の科目を一層増やしつつ体制を作っていくことが大事だと考える。創薬コースを持つ大学は、薬学の中でも創薬コースは特別であることを高校生向けにアピールすることも含め、学生向けに発信することが大切ではないかと感じている。

大学院のことについては、熊本大学の一般的な考え方として、6年制コースの上の大学院というと、薬学教員の育成、後継者育成という現教員の責務があるので、そういう意味合いの強い意志のある人材確保するための6年制コースの後の博士課程があると考えている。本学では毎年5名から8名近くの学生が、博士課程に進学するように、各研究室が推進し育成するようにしている。また、4年制の方では、修士2年の博士課程2年においては、当然ながら研究者志向という特徴を前面に出している。昨今、人材育成のためにも、給与を支払いながら育成に努めている。本学でもリーディング大学のプログラムを活用したり、来年度からフェローシップを使いながら、博士人材をいかに確保するかを意識して行っているのが現状である。

#### <静岡県立大学>

地域連携については、静岡県における薬学部は本学のみなので、6年制の話になるが、薬剤師の輩出が重要な役割となっている。県内出身者が多く、薬剤師として地域に多数貢献している。県外に出る学生もいるが、地元密着型が多い。その意味で、地域からの薬剤師育成の要請に対して役割を果たしていると考えられる。4プラス2というか、6年制でも研究職を希望する学生がおり、4年制学科だけの話ではないが、静岡県には薬品と医療機器の企業が全国一多いという規模があるので、製薬会社に就職する学生もいる。そのような研究職育成を担っている。

- ・4年制学科の入試について（入試形態と募集人数、受験科目等）

文部科学省からの質問事項としてアンケートを実施することとした。

- ・次年度以降の本会議での取り上げたい議事などの提案

参加者からは特に、提案はなかった。上記2つのアンケートをもとに次回の議題を提案することとした。

- ・次回世話人選出

引き続き東京理科大学が世話人をするが、同時に副議長を設定し、次回以降について、幹事を引き継いでもらうことし、了承を得た。

- ・その他

特になし。